

2015年度 日本文化人類学会
第6回理事会 議事録(案)

日時：2015年2月14日(日) 14時～18時30分

場所：関西学院大学 東京丸の内キャンパス・ランバスホール

<出席者> 関根、赤堀、石田、上杉、太田、春日、亀井、岸上、栗田、桑山、慶田、湖中、田中、
名和、真島、松田、松村、山本

<委任状提出>池田、岡田、窪田、瀬川、和崎

〔承認事項〕

1. 2015年度第5回理事会議事録
2. 新入会員(10名)につき、総務会で入会を承認したことを報告の上、事後承認。
3. 「東日本大震災の被災会員に対する2015年度会費徴収特例措置」の申請1件について、総務会の事前検討に基づいて審議の結果、事後承認。

〔報告事項〕

1. 庶務理事報告
 - ・第13回日本学術振興会賞の学会推薦依頼が届いたことを報告。例年通り、理事・評議員への推挙依頼を行った後、教育委員会と総務会で選考を進めることを確認。
 - ・2015年度事業報告・2016年度事業計画案について、原案を理事会メーリングリストで配信するので、各担当理事は原案に加筆修正の上、3月6日までに松村理事へ返信することを依頼。
 - ・各担当理事に次期への引継ぎ文書を作成し、控えのファイルを事務局へ送信することを依頼。
2. 会計理事報告
 - ・学会主催公開シンポジウム(2015年11月8日開催、於金沢)について科学研究費補助金(研究成果公開促進費)(研究成果公开发表B)の実績報告書を提出したこと、補助金の残金については日本学術振興会からの指示を待ち返金予定であることを報告。
 - ・国際シンポジウム(2015年12月12日開催、於首都大学東京)の会計報告を受け、確認中であることを報告。
 - ・各担当理事に2015年度の支出状況と2016年度の予算要求について3月9日までに事務局または赤堀理事まで連絡することを依頼。
3. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき12件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
 - ・科学技術振興機構より、『文化人類学(旧「民族学研究」)』と *Japanese Review of Cultural Anthropology* について、J-STAGE 掲載誌として採択された旨の通知が届いたことを報告。
4. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：80巻3号の刊行と4号の進捗状況を報告。WCAAの刊行するWebジャーナル *Déjà Lu* より寄稿依頼があったため、編集主任と副主任で検討の上、今年度奨励賞受賞論文の英訳を提出したこと、受賞論文は昨年刊行されたものであるため、別のカテゴリーで掲載するとの連絡があったことを報告。
 - ・JRCA編集委員会：JRCA Vol. 16の進捗状況を報告。Vol. 15に掲載されたJoy Hendry氏論文について、英国のBrill社より再出版依頼があり、委員会と総務会で検討の上、『文化人類学』掲載論文等利用許諾基準に基づき、転載を許可したことを報告。
 - ・「国際情報発信強化」特別委員会：国際シンポジウム(2015年12月12日、於首都大学東京)を開催したこと、JRCA Vol. 16へシンポジウムの内容を掲載予定であることを報告。
 - ・国際化・グローバル化対応委員会：次の4点が報告された。
 - ①「国際情報発信強化」特別委員会と国際化・グローバル化対応委員会の構成を報告。
 - ②WCAAのニューズレターへ桑山理事が関根会長を通じて国際シンポジウムに関する報告原稿を寄稿するよう依頼。

③2016年にクロアチアで開催されるWCAAのパネルに窪田理事が参加予定であることを報告。

④次期理事会に国際化・グローバル化対応委員会の課題を引き継ぐことを確認。

- ・民博連携委員会：国立民族学博物館より、国際ワークショップ「フォーラム型情報ミュージアムのシステム構築に向けて——オンライン協働環境作りのための理念と技術的側面の検討」（2016年2月11日・12日、於国立民族学博物館）の後援依頼があり、理事会メーリングリストによる持ち回り審議の結果、承認されたことを報告。
- ・研究発表査読委員会：第50回研究大会研究発表要旨の査読結果を報告。
- ・研究大会運営検討委員会：第52回研究大会開催校について検討中であることを報告。また、第50回研究大会での第50回記念企画については、開催校が企画・実施する予定であることを報告。
- ・地区研究懇談会：各地区の研究會開催状況、開催予定を報告。
- ・次世代育成セミナー実施運営委員会：11月22日に西日本で次世代育成セミナーが開催されたことを報告。

〔審議事項〕

1. 学会誌表紙デザインの変更について

- ・田中理事より、編集委員会での検討結果として、学会員の写真を用いた多色刷りの表紙デザインとすることと、号ごとに写真を変更することが提案された。また、裏表紙見返しに掲載予定の「刊行の趣旨」案が提示された。箭内委員より、デザイナーの作成したデザイン案が提示され、多色刷りの場合の印刷経費やデザイン上のメリット等について説明がなされた。これに対し、①抽象化した形でデザイン的に資料写真を使用するとした前回理事会の議論からは異なり、具体的な写真を使用し、②巻毎ではなく毎号ヴァリエーションを導入するとした2点を中心に意見交換がなされ、次回理事会までにデザイナーによるデザイン・コンセプトを提示してもらうこととした。また、多色刷りを基本とすること、費用を抑えつつも価値ある変更とするために積極的に取り組んでいくことを確認し、次回理事会において継続審議することとした。本件については、次回理事会に向けて、理事会メーリングリストでデザイン・コンセプト、デザイン案、刊行趣旨を配信するので、各理事は事前に検討しておくこと、次回理事会へ出席できない場合には、事前に編集主任へ意見を提出することとした。

2. 学会法人化について

- ・山本理事より、定款作成の方針案とスケジュールについて資料に基づき説明がなされ、次回理事会までに各理事が資料を確認することとした。また、今後は今期理事会で大枠について承認を受け、次期理事会へ引き継ぐ予定であることを確認した。

3. 会費体系の見直しについて

- ・赤堀理事より、『文化人類学』80巻4号へ掲載する会員向けの文書について、前回からの修正部分を中心に説明があり、文言調整の上、承認された。

4. 第11回日本文化人類学会奨励賞について

- ・奨励賞選考委員会より、第11回奨励賞の選考経緯と選考結果の報告がなされ、審議の結果、原案通り承認された。
- ・選考結果については、学会賞・奨励賞の両賞確定後、例年通り、JASCA-INFO及び学会HPで周知を行うこととした。

5. 国立情報学研究所電子図書館に係る申し合わせの改訂について

- ・栗田理事より、国立情報学研究所電子図書館に係る申し合わせの改訂について照会があったことが報告され、審議の結果、平成28年4月1日以降次年度の申し合わせ条件の改訂は行わないこととした。

6. ISSN登録申請について

- ・栗田理事より、『文化人類学』、『民族学研究』、『*Japanese Review of Cultural Anthropology*』のJ-STAGEへの掲載準備のためのISSN登録申請について説明があり、申請書に記載する有料期間（認証機能含む）の設定に関し、『文化人類学』のみ刊行後3ヶ月は認証設定を行う形で申請することが承認された。

7. 課題研究懇談会の継続・新規課題について

- ・課題研究懇談会担当委員会より、今年で活動4年目となった課題研究懇談会から提出された継続申請の選考結果が報告され、審議の結果、原案を若干調整の上、承認された。選考結果については申請者に個別に通知することとし、通知内容については課題研究懇談会担当委員会で検討することとした。

- ・課題研究懇談会担当委員会より、新規課題申請の選考結果が報告され、審議の結果、原案を若干調整の上、承認された。選考結果については申請者に個別に通知することとし、通知内容については課題研究懇談会担当委員会で検討することとした。
8. JRCAの投稿権の拡大について
- ・桑山理事より、①投稿権の拡大、②国際編集委員会の設置、③誌名の変更の3点が提案され、①に伴い変更が必要となる寄稿規程の改定案が提示された。審議の結果、①については、東アジアへ投稿権を拡大するという方向性が承認された。これに伴い、JRCAに関しては、特集において非会員の占める割合を全体の3分の1以内とする現行規程を撤廃することが確認された。寄稿規程の文面については、引き続き編集委員会で検討することとした。
9. 学会賞選考規則改正案について
- ・松田理事より、日本文化人類学会学会賞選考規則改正案が提示され、審議の結果、学会賞の趣旨、選考方法の業績に関する部分の改正が原案通り承認された。また、奨励賞の受賞資格者に関する部分の改正が承認され、文言については調整を行うこととした。なお、奨励賞の選考方法については、積極的な意味での現状維持とし、学会誌への投稿を大学院生に勧める、掲載論文の質を上げる等の方向性を確認した。今後は、今期理事会で原案を確定して次期理事会に引継ぎ、次年度より改正後の選考規則に基づき選考を行うこととした。
10. その他
- ・松田理事より、本学会に倫理規定が必要かどうかを明確にするため、他学会の状況や海外の学会の体制について確認、調査中であることが報告された。意見交換の結果、倫理規定ではなく、倫理委員会の役割を規定する倫理委員会規程を作成することとした。
 - ・田中理事より、先の報告の通り、WCAAの刊行するWebジャーナル*Déjà Lu*に寄稿した今年度奨励賞受賞論文の英訳を別のカテゴリーで掲載すると連絡があったことを受けて、今後の対応策として、*Déjà Lu*の入稿に間に合うよう奨励賞の選考を前倒しすること、英訳については執筆者の判断に任せることが提案され、意見交換の結果、引き続き検討することとした。
 - ・山本理事が出席した2015年11月のAAA会期中に開催されたWCAA会合の報告については、理事会メンバーリングリストで配信することとした。
 - ・第7回理事会の日程：2016年3月21日（月）14：00～於関西学院大学 東京丸の内キャンパス。

以上